

# 研究所だより

第318号  
2012年3月27日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3016

## <1年間ご苦労様でした>

過ぎ去ってみれば1年というのは早いものです。この1年間の学校経営、学級経営、教科経営ご苦労様でした。様々な事柄があったことでしょう。次年度に繋がる成果や課題も明らかになったことと思います。

異動で新天地にいかれる先生方、現任校に在籍される先生方、今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

早速に次年度の構想も立てていることではないでしょうか。そこで、ちょっと学級経営の参考になればと思い、書いてみます。

## 【望ましい学級経営】

担任教師の下、集団生活が始まって行きます。学校・学級の生活に慣れ、それぞれの子どもなりに学校生活での自立への道を歩み始めます。しかし、集団生活であり、学級の人数分の個性が集まっていることから、互いにぶつかり合い、多様な課題が生じたり、あつれきが起こったりします。それらを担任教師の指導の下で解決し自己実現が図られることで、学級生活への自信が高まり、さらに、いじめのない、互いの良さを認め合えるような学級集団の人間関係が深まっていきます。安心感、充実感、満足感などを実感して、さらに目標実現、課題解決に向けて自発的・主体的で行動的な子どもたちに育っていきます。

学級がまとまり、子どもたちが個として、集団として目標に向けて自己実現が図られるよう教師が教育・指導していくことが望ましい学級経営です。まずは、

## ①. 子ども理解

家庭環境も含め、子どもの性格や資質・能力、学校生活への思いや願い、友だち関係、教師との関係など、一人ひとりの子どもの理解に努めることです。子どもたちを理解しようとする構えと努力があることで、教師との人間関係が発達し、個々の指導や集団の指導が可能となります。

- ・どの子にも挨拶や声かけをします。挨拶はコミュニケーションの出発点です。教師の方から明るく元気な声で積極的に挨拶の声を送るようにします。
- ・子どもの話や声をよく聞き、聴くようにします。子どもの話や声に聞き耳を立てたり、直接話をよく聴いたりしてその内容から子どもたちの思いや願いなどを読み取るようにします。
- ・子どもとのコミュニケーションの機会や場を積極的につくることです。意識して場や機会をつくるようにすることです。
- ・授業の中でのコミュニケーションを大切にします。授業の時間が子どもと一緒にいる時間が最も長いのです。その過程で子どもと触れ合うことを大切にします。どの子も学習が楽しく分かりたいと願っています。それに応えるように子どもと関わることを大切にします。
- ・どんな行動についても、注意する前に「何があったのか、どうしたのか」を問います。まずは、事実の確認を優しい口調で聞くことです。
- ・個々に個性があることを大切にすることです。子ども一人ひとりが考えも行動も違うこと、何を望み、何を求め、どう行動しようとしているのかを理解しようとするのです。
- ・子どもたちは常に変容している、成長している存在であることを認識しておくことです。その認識を持って観察していれば、小さな変化や変容を見逃さずに認め、見いだすことが出来るようになります。

## ②. 目標の実現

子どもたちが学級生活を主体的・創造的に展開するためには、自分たちの学級の目標を立て、その実現に力を合わせる体験や、自分たちの生活に起因する様々な問題を話し合いで解決し、より良い生活を実現する体験などを味合わせる事が大切です。

- ・子どもたち一人ひとりが学級や教師に対してどのような思いや願いを持っているかを把握することに努めます。
- ・個々や学級のスローガンを大きく掲示し、常に見えるようにしておきます。それらは、自分たちの行動や活動を見直し、振り返る際の評価基準や物差しとなり、それらを意識させて、良さや課題を明らかにし、次に繋げるように指導することです。
- ・活動の過程で折々に評価し、目標の実現状況やそこまでの努力や工夫を評価していくことです。
- ・結果やゴールに際しては、実現状況を共に認め、喜ぶことを第一にし、改善点があれば今後に繋げ生かすように励ましていきます。

## ③. 問題の解決

学級は集団生活ですから、一人ひとりの問題、集団としての問題など、様々な問題が生じます。その解決に向け、教師として、人生の先輩として指導・助言することが求められます。

- ・問題状況や実態をきちんと把握することに努めます。時に背景や要因が複雑なこともあり得るし、プライベートの問題もあります。それだけに慎重に対応しなければいけません。
- ・解決策は可能な限り子どもたちから出させ、いくつかの案を列举し、話し合わせます。その判断の基準は学級目標であり、それを大切にして十分に話し合わせます。

## 「お世話になりました」 教育センター所長 森田 健

平成22年4月（教育センター）、皆様との出会いから早2年が経ち、私もこの春、定年を迎えた退職となりました。この間、教育センター業務等につきましては皆様には大変お世話になり、改めてお礼申し上げます。

この2年間は、教育、不登校関係、青少年の健全育成等々について勉強させていただき、皆様に教わることばかりでありましたが、こういった皆様との出会いを大切にしていきたいと思えます。

退職後は、のんびりした生活を送り、日々を過ごす予定であります。何処かでお会いしたときは一声おかけくだされば幸いです。

皆様のご健康とご活躍を祈念し挨拶に代えさせていただきます。お世話になりました。

## 「少年補導センターで3年間お世話になりました」補導センター 坂井 孝吏

学校を始め、関係各機関の皆様、地域の皆様に支えいただきながら、多くのことを学ぶことが出来ました。現在、土佐清水市の学校は比較的落ち着いていて、以前とは随分と違ってきました。それは喜ばしいことなのですが、一方で、虐待や発達障害、不登校など多くの課題を抱えて苦しんでいる子どもや家庭が減らない現実もあります。時代の変化とともに少年補導センターに求められているものも、変化してきていることを痛感した3年間でした。十分なことは出来ず、ご期待に添うことは叶いませんでしたが、土佐清水の子どもたちが、様々な場面で頑張りやすくなるように、その環境づくりのお手伝いを自分なりにしてきたつもりです。土佐清水市を離れることになりましたが、また、いつか土佐清水市に帰ってきたいと思えます。ありがとうございました。